

たぶせやまざき
田伏山崎遺跡
 (糸魚川市大字田伏字山崎)

田伏山崎遺跡では、北陸新幹線および一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年度から発掘調査を行っています。18年度は、狭小な海岸平野に延びる細尾根上の尾根地区(古墳時代後期、標高約22~24m)と尾根地区の西の沢にある沢地区南(中世・古墳時代後期、標高約10~12m)の一部の発掘調査を行いました。今年度は、沢地区南の1,500㎡と沢地区北の500㎡について発掘調査を行っています。

6月上旬で、沢地区南の中世面は調査を終了しました。遺構は柱穴1基、ピット2基、杭列4基が検出されました。遺物は珠洲焼、天目茶碗などの陶器類が少量と、漆器椀、馬形、鳥形、糸巻きなどの木製品が大量に出土しています。今後は古墳時代後期の調査に入る予定です。

沢地区北(中世・古代・古墳時代後期・標高約9m)は、現在、中世から古代の面を調査中です。そこでは中世の珠洲焼、天目茶碗、平安時代の土師器椀・皿、須恵器、木製品などが多数出土しています。中でも特徴的なのは製塩土器が多数出土していることです。製塩土器は海水を煮詰めて塩を作るための素焼きの土器で、バケツのような形をしています。製塩土器の周辺には土坑や焼土があり、柱穴なども見つかっていることから、覆屋が立てられていた可能性があります。また、糸魚川市では初となる石銚(花崗岩製長4.1×幅3.9×厚0.6cm)が、1点出土しました。これは、平安時代の役人が着用したといわれるベルトの装飾品で、大変珍しいものです。このことから、役人が関わった製塩所だった可能性もあります。また、漁網の土錘も出土しており、漁村としての風景も垣間見えます。平安時代の海岸線は不明ですが、調査区は現在の海岸線から約700m山側に入ったところにあります。

今後の調査の進展により、集落の様相が明らかになるものと期待されます。

(佐藤友子)



石銚の表と裏



製塩土器出土状況



墨書土器「田」